

## 第44回全国ホテル研究大会報告

### 研究大会の概要

全国ホテル研究会の第44回大会が平成23年6月10日～11日の2日間、岡山県鏡野町郷ならびに上齋原にて、全国ホテル研究会主催、第44回全国ホテル研究大会岡山県かがみの大会実行委員会主管、環境省、岡山県、岡山県教育委員会、鏡野町、鏡野町教育委員会、NHK岡山放送局、読売新聞岡山支局、OHK岡山放送局、朝日新聞岡山総局、毎日新聞岡山支局、山陽新聞社、津山朝日新聞、鏡野町商工会の後援で盛大に開催され、全国各地から111名の参加をいただきました。

10日、10時30分から鏡野町中央公民館で受付が始まり、13時30分からオリエンテーションが開催されました。実行委員長の藤本信男氏の挨拶と諸連絡の後、3会場に分かれて分科会となりました。分科会は「自然の中での保護活動」「増殖についての保護活動」「ホテルの住みよい環境づくり」という、例年とは違うテーマ分けで行い、参加者からの発言も多く、有意義な会になりました。16時30分からバスに分乗し、小雨の中、郷地区、中谷地区のホテル生息地を視察しました。現地視察後、郷公民へ移動しそこで夕食をとり、暗くなるのを待ちました。

19時20分から再びバスに乗り込み、昼間視察した発生地をまわりましたが、昼過ぎから降り出した雨は夕方には本降りとなり、バスの中からのホテル観察となってしまいました。それでも雨の中、けなげに飛ぶゲンジボタルの姿を見ることができました。ホテル観察後、いったん車で来られた参加者を駐車場で降ろし、その後宿泊場所の奥津温泉と上齋原へ移動しました。

翌11日、朝には前日の雨もあがり、雲の切れ目から太陽が覗いていました。上齋原地区にある、上齋原文化センターのバルトホールを会場に研究大会が開催されました。9時00分より、テレビ瀬戸内アナウンサーの保崎弥緒さんの司会で開会式が始まりました。水野副会長の開会宣言、中村会長、山崎親男鏡野町町長の挨拶、石井政弘県知事（代理角田保彦美作県民局長）、山本英和実行委員会事務局長の祝辞と続き、来賓が紹介され、開会行事を終了しました。

開会式の後、藤本信男氏による「鏡野町におけるホテル保護活動15年の歩み」、高等学校教諭でエコネットワーク津山で活動をされている神田寿則氏による「エコネットワーク津山ホテル探見隊ホテル調査」、川崎医療福祉大学教授梶田博司氏による岡山県のホテル事情」と3つの講演がありました。その後研究発表に移り、青森県立八戸北高

等学校の生徒さん2人による「全国SSHなどによる「ゲンジボタルコンソーシアム」について」の発表がありました。これは八戸北高校が全国のスーパーサイエンスハイスクール指定校に呼びかけ、参加した全国18校と地元の河川環境の調査とゲンジボタルの遺伝子解析を共同研究したものです。ここで昼食をはさみ、午後からは会員による7件の研究発表があり、藤本信男実行委員長の挨拶で研究発表が終了しました。

この後例年のスタイルを変更して、岡山県鏡野町から次期開催地である鹿児島県霧島市へと大会幕の引き継がれ、上野武次氏から挨拶が行われました。ここで中山歳喜全国ホテル研究会事務局長の閉会の挨拶で研究大会を終了しました。

続いてアトラクションに移り、「鏡野ソーラン」「作州銭太鼓」が披露されました。

アトラクション終了後、第44回総会が開催されました（総会報告参照）。

総会終了後、国民宿舎いつきに会場を移し、懇親会が開催されました。中村会長、河田紘開鏡野町議会議長の挨拶の後、年岡康男鏡野町教育長による乾杯があり、和やかに会員や地元大会関係者との親睦を深めました。途中昨日の雨でゆっくりと眺められなかったホテルを見に出かける人達もいました。最後に藤本信男氏の閉会挨拶で終了となりました。

**会 場**：岡山県鏡野町 上齋原文化センター

## 大会日程：

6月10日（金）

- 10：30～ 受付（鏡野町中央公民館）
- 13：30～14：30 オリエンテーション
- 14：40～16：20 分科会
- 16：30～18：00 現地見学（郷地区、中谷地区ホテル発生地）
- 18：30～19：10 夕食（郷公民館）
- 19：20～20：30 ホテル観察（郷地区、中谷地区ホテル発生地）

6月11日（土）

- 9：30～ 9：50 開会式
- 10：00～11：20 講演（藤本信男、神田寿則、梶田博氏）
- 11：20～15：00 研究発表
- 15：00～15：30 大会幕受け渡し
- 15：30～17：40 アトラクション
- 17：50～18：20 第44回総会
- 18：30～20：50 交流懇親会（国民宿舎いつき）

## 研究発表：

- ①鏡野町におけるホタル保護活動15年の歩み …………… 藤本 信男
  - ②エコネットワーク津山ホタル探見隊ホタル調査 …………… 神田 寿則
  - ③岡山県のホタル事情 …………… 梶田 博司
  - ④全国SSHなどによる「ゲンジボタルコンソーシアム」について  
…………… 青森県立八戸北高等学校
  - ⑤志賀高原石の湯ゲンジボタルの生態—その3 …………… 三石 暉弥
  - ⑥瀬上沢のホタル生息調査とエコアップ活動Ⅱ …………… 佐々木 史江
  - ⑦ゲンジボタルの羽化不全について …………… 井口 豊
  - ⑧ホタル移植指針課題への取り組み—市民活動団体への呼びかけのために—  
…………… 村上 伸茲
  - ⑨マレーシアで開催された国際シンポジウムの概要 …………… 大場 信義
  - ⑩遺伝子から見たゲンジボタルの生物多様性と人為的放流の問題点 … 草桶 秀夫
  - ⑪名勝八景とホタル …………… 後藤 好正
- (共同発表の場合は発表者のみ)

## 大会開催地より

### 第44回全国ホテル研究会大会 岡山県かがみの大会に思ふこと

岡山県かがみの大会実行委員長 藤本 信男\*

先ず全国各地より御参加下さいました会員の皆様方に厚くお礼申し上げます。かえり見ますと本会に入会をすすめられたのは、私達の住む郷川（岡山県1級河川）の源氏ホテルがその名を消されるのではとの話が持ち上がった時でした。ホテルについて学べるのはこの会だと津山市の知人に教えられ、数年後に大会に参加して見ると大変参考になる事が多く、特に分科会での発言は私にとってとても勉強になりました。参加すること11回、鏡野町のホテルを育む会32名に、参加する度にメモを発表することが参考になりました。青森大会で岡山県を申し出ました。長野大会で決定をいただき、その12月実行委員会（23名）が発足いたしました。会員は2名で心配と希望の交差する中で、何から始めようかと、本会の会長、事務局長をお招きして基本を教わりました。その詳しい進行表を見て、青森県、長野県の人々の「いいことだけど大変だよ」のお声に又心配しましたが、とにかく発足し、全国から訪れる人々に好感をもっていただき、鏡野はよかった」と言ってくれる様努力しようと申し合わせました。案内をいただき、メ切内に申し込んで楽しく三日間を過ごしていた私は、事務処理が進むにつれて頭の痛い事ばかり。実行委員の皆様頑張って「ここはどうすればいいの」「私の経験ではこうです」と1問1答の形で実行委員の人々には迷惑をかけました。3月11日東北に大きな災害が発生。原発の事故と発表により全国各地でいろいろ大会、イベント等が中止された。我が鏡野町でも夏の花火大会が中止され各地より「大会どうする」の問いが来ました。ホテル研究会に相談しましたところ、準備も進んでいる事だし、実施する方向でとの答えを受け、中断していた事務処理に専念する。この様な状況の中、大会の当日が来た。実行委員は自分の持ち場について、会員の皆様をお迎えする日がやってきました。委員それぞれに責任と自覚をもって事に当たる様願います。心配していた雨は午前中やっとなり、ホテル観賞の時間には大雨となり、一部を除いてほとんど見られず、数十頭

が見られた。

分科会は、皆様より実例を話し合っ意見の交換ができた喜んで下さった事が記憶に残っている。上齋原に第2日目を迎える朝は雨。実行委員の雨の中での作業は感謝一杯です。小雨の中の開会式、岡山県、鏡野町などより来賓をお迎えして盛大に行われ、ステージでは青森の高校生2名の研究発表など11組の発表が行われ、岡山県庁、美作県民局、備前県民局より8名の環境課の方々熱心に発表をメモを取る人の姿も見られました。準備の不足と経験の浅さから、一部にお叱りを受けた事もありましたが、体調不良もなく、天気には恵まれませんでした、大会として無事終わりました事お礼申し上げます。特筆とは言えないかも知れませんが、懇親会の時間に郷川に出かけていった数人の方は、すばらしいホタルの数を見学して喜んでいられたことが、せめてものなぐさみと思っています。

この大会について、地区の皆様が研究発表を聞いて高度な知識を得ると同時、環境に対する考え方が変わって来たと思っている。ホタルが生育することにより、豊かな環境と言った事、ホタルの住み易い自然を守ることが環境をよくすること、都市に比べると小さな山村ですが、そこには自然が一杯、その形を守る事が我々の時代の責務と考えている。鏡野町の小さな川で、ホタルを増やす活動が実り数名の方々と、奥津温泉の吉井川に、その上流の上齋原温泉にホタルを育てようと、協力している今日この頃です。終りになりましたが、不都合が生じた時、時間の配分でつまずいた事をお許しをいただき、笑顔でにぎやかにこの大会を支えて下さった、関係各位を感謝申し上げ、反省の挨拶いたします。